

2006C

<p>研究テーマ名</p>	<p>児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が 必要か ～教育普及スキームの構築研究～</p>
<p>背景と目的</p>	<p>本研究の目的は、児童生徒等に対する発達段階に応じた効果的な交通安全教育を普及させるための要件を明確にして、教育普及のためのスキームを構築することである。教育普及スキームを構成する要素として、次の4点に焦点をあてて教育実践を行い、戦略的枠組みを提案するものである。4つの要素とは、①魅力ある教育プログラムの開発（児童生徒等の主体的な活動に基づき興味関心を導く教育内容・方法であること）、②エビデンスの蓄積（児童生徒等の意識・行動が変容する教育であること）、③教材・評価ツールの開発（子どもたちが理解しやすい教材や意識・行動の変化を評価するツールを利用可能にすること）、④人（指導者育成）（教育普及に関わる指導者の育成方法や教育支援に関する知見を収集すること）である。</p>
<p>期待される成果</p>	<p>2019年度の研究調査を通して示唆されたことは、児童生徒等の主体的な活動を基盤にした教育活動は、安全教育に対する積極的な学習意欲を引き出すということである。このことを再確認できたのは、中学校と高等学校での教育実践であった。具体的には、上級生が下級生を指導するという教育活動（中学校）、生徒会が中心となって実施した交通安全シンポジウム（高等学校）であった。いずれも、自己の安全だけでなく他者や社会の安全を考える機会が提供されており、そのことが生徒の積極的な参加を引き出したものと解釈している。このことは、教育普及を図るには、教材や教育手法の開発というテクニカルなノウハウを提供するだけでなく、社会性の発達など子どもたちが自らを成長させていく姿をキャリア発達の観点から可視化する、さらに現場の実状に応じて児童生徒主体の教育活動をプロデュースする方法を含めて、教育現場に研究成果を提供する必要があることを示唆する。学校現場や教育行政にこのような支援を行うことにより、自ら学び考える教育への転換が求められている現在の学校教育と、本プロジェクトの研究成果が有機的に融合され、教育普及がより一層促進されることが期待される。</p>